

研究課題 (テーマ)	薬物治療におけるテキストマイニングを用いた感情分析による医療事故防止の促進		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	講師	渋谷 昭子
分担者	看護学部	教授	越田美穂子
	看護学部	助手	池田 衣澄
研究結果の概要			
<p>近年、増え続ける医療事故や医療過誤を背景に、有効な医療事故防止が求められている。日本医療機能評価機構(※1)の医療事故情報収集等事業(※2)による2017年度の報告では、薬剤に関連した医療事故とヒヤリ・ハット(※3)事例の発生件数が最も多く、特に患者への安全性に最も影響を与える薬物治療において、思考過程から原因の全体像を俯瞰した事故防止は喫緊の課題である。</p> <p>本研究では、医療行為の第一段階には目に見える行為そのものではなく、その前には医療者の感情に強く支配される意思決定過程が存在することに着目して、薬物治療における医療者の思考の段階からの感情分析を行い、感情と医療事故との連関について考察した。</p> <p>日本医療機能評価機構で公開している医療事故情報データベースの医療事故事例約34,000件より、薬物治療における看護師の与薬行為において適切と考えられる事例を検討して抽出した。抽出した医療事故事例における看護師の感情についてテキストマイニング(※4)による感情分析を行った。次いで、薬物治療における医療事故の内容と感情の連関について分析を行った。</p> <p>分析結果により、薬物治療における与薬行為での看護師のポジティブ感情とネガティブ感情が明らかになり、さらに、与薬行為における医療事故の内容と看護師の感情との連関が明らかになった。</p> <p>研究成果については、アメリカの国際学会で発表予定である。</p>			
<p>※1：医療機関の評価を実施、機関が質の高い医療サービスを提供していくための支援を行う第三者機関</p> <p>※2：医療安全対策の一層の推進を図るため、医療機関から医療事故情報やヒヤリ・ハット事例を収集し、分析・情報提供を行う。</p> <p>※3：医療行為の過失はあったが、結果として事故には至らなかったもの</p> <p>※4：通常の記事からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や出現傾向等を解析することで有用な情報を取り出すテキストデータの分析方法である。</p>			
今後の展開			
薬物治療以外の全医療行為への適用、ヒヤリ・ハット事例への適用、そして看護師と多職種(医師、薬剤師等)との感情の連関についての分析を検討していく。			